

平成20年第2回幸田町議会臨時会会議録

(会期:10月17日)

1番、酒向君。

○1番(酒向弘康君) 新駅について、1点確認をさせていただきます。

新駅建設は、幸田町としての先行投資でもあるように思っております。将来のまちづくりの基盤づくりには、大変有効であるというように考え、大きな効果を期待するものであります。

そこで伺います。民間企業では、設備投資をする場合、どこに工夫をしたのか。そして、どんなコストダウンをしてイニシャルコストを下げ、その計画を申請するのかということが問われます。

駅と設備とは違いますが、基本的な考え方を同じというふうに考えるとすれば、今回の新駅の工事費概算が示されたわけなんですけど、JR側からどこを工夫して、どのようにコストダウンの改善をしたのかということが聞いておられたら、その点をお聞かせください。

○議長(笹野康男君) 総務部次長。

○総務部次長兼企画政策課長(新家道雄君) 当初、駅の位置を具体的に定めるに当たりまして、当初の計画ですと、例えば鷺田立体に待避線がかかるといったような形で画かれ、それに基づいて区画整理も進めてきたわけですが、実際問題、鷺田立体をなぶるといようなことが、非常に事業費の増大につながるということもございまして、待避線の分岐点を鷺田立体を避けて位置をずらすというように現に当初の設計の中でいたしております。

それによって、若干、駅広場の位置も修正をさせていただいたと。そういった点では、区画整理に大変迷惑もかけてきたわけですが、そういったいろんな面での工夫をし、全体事業費の圧縮に努めてきたということでございます。

○議長(笹野康男君) 1番、酒向君。

○1番(酒向弘康君) 今後、町からの提案を含めて、コストダウン提案はされるのか。やられるとすると、どのような形で進められるのか、お聞きをいたします。

○議長(笹野康男君) 総務部次長。

○総務部次長兼企画政策課長(新家道雄君) 基本設計がなされて、今後につきましては、工事協定以降は、詳細設計という段階に移ります。そういった詳細設計では、基本的構造や形式は変更することが非常に難しいわけですが、使用部材の関係につきましては、これからこういったものを使っていくかということは検討の余地があるわけですので、そういった中で、少しでも機能を維持し、なおかつ安価なもの、部材の選択が今後細かい幾つも出てくるかと思えます。そういった点での事業費圧縮の努力が可能ではないかというふうには考えております。

○議長(笹野康男君) 1番、酒向君。

○1番(酒向弘康君) ぜひ、むだなところはどんどん省いていただいて、工夫でコストダウンをして、さらに住民の理解を得られるように努力をしていただきたいと思います。

○議長(笹野康男君) 1番、酒向君の質疑は終わりました。